

クレアンを起点に社会全体の環境力を拡大

菌田 綾子 (そのだ あやこ/株式会社クレアン代表取締役)

環境文明21が主催する第2回経営者「環境力」大賞を頂けたことは、とても光栄です。今回は環境・社会問題解決へのアプローチを、クレアンの事業を通じてご紹介します。

1988年にマーケティング会社として設立したクレアンは「輝く笑顔が溢れる地球の未来を想像する」ことを理念とし、持続可能な社会を実現することを使命としています。その実現のため、日々協働するクレアン社員にはこんな人財であってほしい。その思いをこめて、「クレアンバリュー」を策定し、2010年1月に発表しました。

Cre-en Values

私たちは、ここに掲げた7つのバリューを日々実践することで、企業理念とビジョンの実現を目指します。



この「クレアンバリュー」を念頭において業務にあたり、事業活動を通じて持続可能な社会づくりに参画する人財となってほしいと願っています。

クレアン設立当初、女性向けのマーケティングを中心にしていた私が環境問題と関わったのは、1995年、あるご縁があって環境問題を子ども向けにわかりやすく解説する図書を10巻シリーズで編

集・制作したのがきっかけでした。その中で、環境問題の深刻さを目の当たりにし、地球に生きる一人の人間として自分に何ができるかを考えるようになりました。環境問題は一人ひとりの意識、行動を変えることで、きっと解決することができると気づいたのです。

例えば買い物をする際、同じような商品が2種類あり、片方がより環境に配慮されている商品であればそちらを選ぶ。買い物ひとつとっても、私たちは日々環境活動に参加し、企業を応援することができるのです。それには生活者の意識を変えることと、環境に配慮した商品が世間に多く展開される必要があります。そこで、環境情報をもっと発信したいと考え、インターネットが爆発的に広がってきた97年、環境問題をテーマにしたwebマガジンをNECシステムテクノロジーさんと共同で創刊、環境ビジネスを本格的にスタート。現在は環境だけではなくグローバルな社会問題解決も含めて、CSR報告書の企画制作と同時にCSRマネジメントのコンサルティングに注力しています。これまでに報告書を作成した企業は延べ345社（2010年8月時点）にのぼります。

環境問題を初めとする社会の問題を解決するために、まずは企業に働きかけ、企業の方々の環境マインドをアップするというのが、クレアンの事業モデルです。最近では広くメディアでも取り上げられるようになりましたが、地球環境問題はさらに深刻な状態になっています。またグローバル社会のなかでは、国内だけではなく中国をはじめとする海外の社会問題も私たちと無縁とは言えません。一方で、こういった問題解決への取り組みは十分とはいえ、次の世代が幸せに暮らすことができる社会を残すことができないと感じています。未来社会を持続可能に変えていくために、まずは国家以上に影響力が大きくなってきているグローバル企業が変わることが近道です。

そこでクレアンが制作支援している企業の報告書が重要な役割を果たします。報告書には三つの役割があります。ひとつは企業が社会へ説明責任を果たすための情報公開ツール。もう一つは企業と社会のコミュニケーション・ツールです。持続可能な社会を実現するために、企業が何をすべきなのか、経営トップが明確にコミットメントすることが求められています。報告書を制作するプロセスを通じてマルチステークホルダーの声を聞き、その企業にどのような役割が期待されているのか、フィードバックを受けることができます。

最後に、企業自身の活動を見直すマネジメント・ツールとしての役割。毎年発行する報告書では、CSR活動の目標、計画、進捗状況をPDCAサイクルで改めて見直す機会となります。そのことが、経営者や従業員の意識付けや活動のレベルアップにもつながるのです。



最近では、従業員への意識浸透を重視される企業が多くなってきました。企業によっては海外も含め何万人もの従業員がいらっしゃることもあります。従業員の意識が変わると、事業活動、商品やサービスも変わり、ビジネスモデルの転換につながる可能性があります。また、家に帰れば、一人ひとりが生活者であり、市民となるわけですから、一人ひとりの環境意識を変えることが持続可能な社会転換への大きな一歩となると考えています。もちろん、報告書を作成するだけで、従業員に自社の環境活動が浸透するというわけではありません。そこで、従業員の中から希望者を募り、「自社は持続可能な社会に向けて、どのように貢献できるのか」、「2050年にどのような事業をして

いたいか」というテーマで社内ワークショップを行っています。そこに集まるのは普段なかなか顔を合わせる事のない別部門・関係会社の志ある従業員です。ワークショップの中で出てきた問題意識を共有し、課題解決にむけて話し合ったことを、また自部門に持って帰り日常の業務に反映してもらおうという仕組みです。

また、経営者の意識を変えることも重要です。報告書に掲載する「社長メッセージ」はなるべくインタビュー形式で行い、経営者の生の声をお伝えするようにしています。経営者の多くは、長期的に環境や社会問題の解決に自社がなくてはならない存在になりたいという意識を持っていらっしゃる方も多いと感じます。その思いや企業の長期ビジョンを改めて言葉にさせていただくことで経営者も再認識することができ、報告書を読んだ方にもその姿勢が伝わってきやすいのです。

今年、「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が名古屋で開催され、生物多様性条約の枠組みが議論、策定されます。生物多様性という表現は、難しく捉えられがちですが、私たちの命の源である生態系の保全であり、究極は「生命のつながりであり、地球に生きる私たち一人ひとり、つながりあっている」ということを再認識することだと思います。社会の仕組みによって分断され、心のつながりが途切れているために起きている社会問題も数々あると感じます。そうした意味でも、未来社会は、生命のつながり、人間のつながりを大切に、心の豊かさや目に見えないものに重きを置く価値観が理想ではないでしょうか。そのためにも、メディアや金融をはじめとする様々な企業や市民一人ひとりが環境力を身につけ、視野の広い判断によって行動して、未来社会を幸せな方向に変えていく役割を担ってほしいと考えます。これからの行動を変えれば、未来は、きっと笑顔あふれる社会に変えられると信じています。

最後になりますが、クレアンをご支援してくださっている多くの方々に、そしてこの場をご提供くださった環境文明21のみなさまに、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。